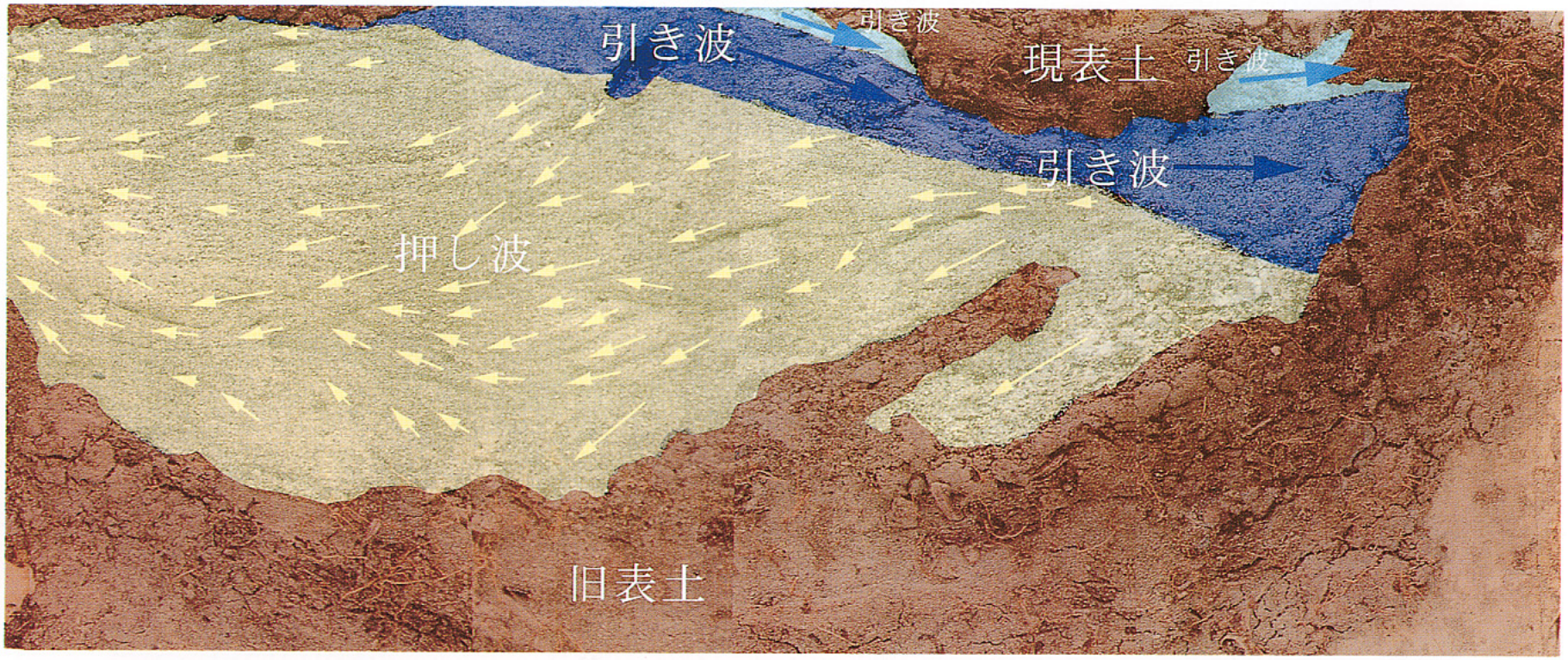
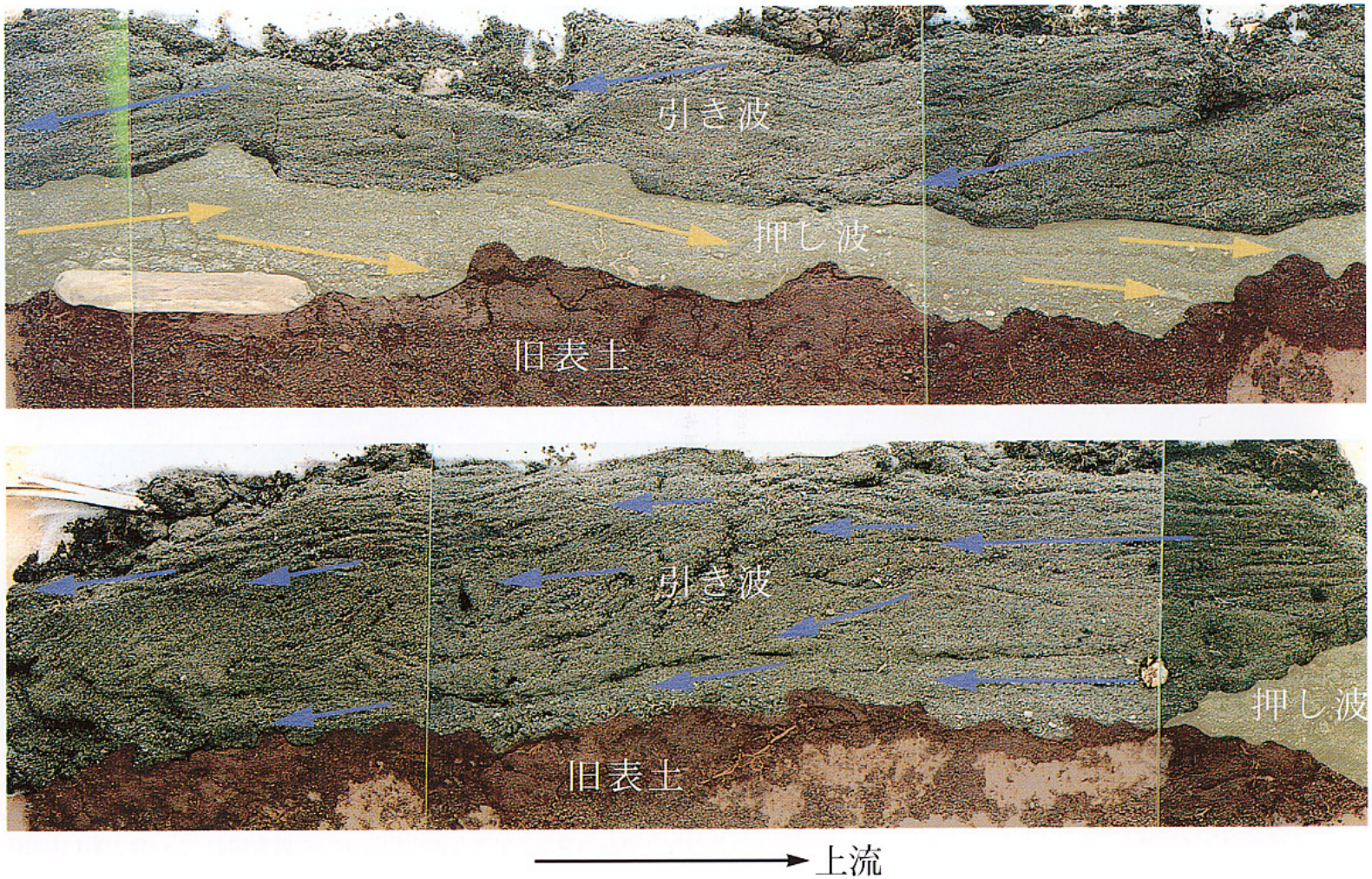
津波堆積物の堆積構造

陸上に残された津波遡上の痕跡，すなわち津波堆積物ついては，近年，世界各地でさまざまな産状報告がなされている．しかし，その堆積物としての特徴について詳しく論じた報告例は，現在に至ってもあまり多くは知られていない．私たちの研究グループでは，1993年北海道南西沖地震による津波の来襲を受けた渡島半島の大成町臼別川河口域において，津波堆積物の堆積相の側方変化とそれに呼応した粒度変化の特徴について検討を行っている．今後これらの基礎データに基づいて，日本各地の歴史津波の痕跡（津波堆積物）を再検証する予定である．<地質調査所 七山　太・佐竹健治・下川浩一，明治コンサルタント（株）重野聖之>



上流 ←

1. 臼別川の河川敷において観察される津波堆積物の産状（臼別橋の上流約60m）．
押し波によって旧表土が削り取られている．津波堆積物の層厚は総じて河口域ほど厚く，上流に遡行するにつれ薄くなる．また，それに伴い粒度も細粒化する．



2. 臼別川の河川敷において観察される津波堆積物の産状(臼別橋の上流約50m).
上部) 引き波と押し波によって形成されたカレントリップルが明瞭である.
下部) 多くの場合, 押し波によって形成された堆積構造は, 引き波によって再配列されるために残されにくい.